# 古典を毎日「音読」し、学力の基礎を身に付けよう

－一生役に立つ学力の基礎は「古典」－

開倫塾
塾長　　林　明夫

**Ｑ：古典を「音読」すると、学力が身に付くのですか。**

Ａ：(林明夫。以下省略)「古典」とは、古い時代にでき、現在まで何らかの価値が認められてきた本を言います。各国にはおのおのの古典があります。日本では、「古文」や「漢文」と呼ばれるものが「古典」と言えます。

日本に生まれ、日本で生活している人には、日本の古典である「古文」と「漢文」を毎日少しずつでも「音読」すること(声に出して読むこと)を私はお勧めしたい。

古典は、すべての教科や日本人としての生活の基礎となるものだからです。特に、教科書に出てくるような「古文」や「漢文」は、毎日「音読」することが学力向上の上で役に立ちます。

**Ｑ：例えば、「漢文」はどのように「音読」すればよいのですか。**

Ａ：原田種成先生は、御自分の旧制中学校時代の勉強方法を振り返り、音読の方法を次のように示しておられます。「音読するには、原文に返り点だけがあり、書き下(くだ)し文がわきに添えてある本を用い、書き下し文を栞(しおり)などで押(おさ)え、読み方のよくわからないところや読めない字があると、栞をあげて下を見る。つまり書き下し文が側(そば)にいる先生の役をするのである。そのようにして、一節を書き下し文を見ずに全部すらすらと読めるようになって、次の節に進む、というようにして読み進めた。

さらに翌日には、前日に読んだところがつかえずに読めるかどうか確かめてから翌日分の節に進んだ。これが私の漢文読解力の基礎になったと思っている。」(P.38)

＊原田種成著「漢文のすすめ」新潮選書、新潮社版 1992 年 9 月 15 日刊より引用。

すらすら読めるようになった古典の文章は、気に入ったところだけでも何も見ないで口をついて言えるようにしておくと、学校時代だけでなく何歳になっても忘れないものです。

**Ｑ：どのような「古典」を音読したらよいのですか。**

Ａ：中学校や高校の学校の教科書に出てくるような「古文」や「漢文」を、意味を確かめながら、まずは音読することをお勧めします。もしできれば、図書館や書店でその単行本を探して全文を手元に置き、意味を確かめながら少しずつ「音読」することをお勧めします。そして、気に入った文章は、何も見ないですらすら言えるまでにすることです。

図書館で借りた本は返却しなければならないので、気に入ったところはノートに「書き抜く」こと、そして、書き抜いた文章をすらすら言えるまで「音読」することも忘れてはなりません。

**Ｑ：なぜ「古典」を「音読」すると学力が身に付くのですか。**

Ａ：これからの世の中は、「知識が基盤になった社会(知識基盤社会)」です。目の前で起こっているものごとについて、一体何が問題なのか、その原因は何なのか(なぜそうなっているのか)、とりあえずどうしたらよいのか、ゆくゆくはどうしなければならないのかなどを自分の頭で考え、問題の解決をしなければならない時代です。

深くものごとを考え、自分の創造力を発揮させるためには、ことばや考え方の本当の意味をよく「理解」した上で、自分の考えを自分のことばや表現方法で他人に伝え続けなければなりません。日本の古典である古文や漢文は、そのときにとても役に立ちます。日本の古典だけではなく、いろいろな国の古典もとても役に立ちます。

**Ｑ：他の国の人たちも、古典を学んでいるのですか。**

Ａ：どこの国や民族にもその国や民族の古典があり、心ある学校では古典が大切にされて、先生方も熱心に古典を指導しています。そこで学ぶ人々も熱心に古典を学んでいます。

社会の指導者となる人ほどしっかりとした考え方を持つことが求められますので、古典をよく学んでいます。

**Ｑ：日本の指導者はどうですか。**

Ａ：旧制中学校(第二次世界大戦前の中学校)で学んだ人々は、古典をよく学び身に付けていたようですが、戦後は、高校での古文や漢文の学習時間がどんどん少なくなっているので、古典を十分に学んでいる人も少なくなっているようです。

**Ｑ：どうしたらよいのですか。**

Ａ：日本の学校では古文や漢文などの古典をあまり教えなくなりましたので、そのことをよく「自覚」した上で、社会のリーダーを目指す人は自分で古典を学ぶしかありません。ただ、幸いなことに、日本には表現の自由の一つとして「出版の自由」があり、日本国憲法で保障されていますので、図書館や書店には古文や漢文など「古典」と呼ばれる本が山ほど並んでいます。

人生は長く、また、健康にさえ気をつければ 100 歳以上まで生きられる国に日本はなりましたので、あまり焦(あせ)ることはありません。一生をかけてじっくり古典を読み込んで下さいね。

**Ｑ：リーダーが読むべき本として、これぞという古典を何冊か紹介して下さい。**

Ａ：中国の唐の時代の基礎を築いた太宗という指導者の教えを記した「貞観政要(じょうがんせいよう)」がお勧めです。明治書院刊の原田種成著の上下本を手元に置き、意味を確かめながら少しずつ「音読」することです。北条政子、徳川家康、明治天皇はじめ日本のリーダーのテキストとなったのが「貞観政要」です。

佐藤一斎著「言志四録(一)～(四)」(講談社学術文庫刊)も、日本のリーダーとして読むべき本と考えます。

橋本左内(さない)が元服(げんぷく)を迎えた 15 歳の時に書いた「啓発録(けいはつろく)」(講談社学術文庫刊)も読んで頂きたい古典の一つです。

**Ｑ：最後に一言どうぞ。**

Ａ：本当のことを言うと、皆様に御紹介したい古文や漢文など「古典」はもっともっとあるのです。これからも、少しずつ御紹介させて頂きます。皆様の保護者や知り合いの方、先生方も、皆様に紹介したい古典をいくつかお持ちかもしれません。教えて頂いたら「素直」な心でその古典を紐解く(ひもとく)ことも、皆様の人生を開くきっかけになりますよ。

ちなみに私は、原田種成先生の明治書院刊「貞観政要」(上下)を昭和女子大学副理事長の前原金一先生から教えて頂きました。「言志四録」の素晴らしさは、弁護士の高井伸夫先生から教えて頂きました。

皆様も、身近な素晴らしい人から素直な心で教えを受けて下さいね。

－ 2009 年 2 月 15 日記－